

2021年8月8日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒40番（旧50番）

『主イエスはわがため』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 6:14節

『しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。』

礼拝讃美歌⇒132番（旧196番）

『栄の主イエスの』

聖書⇒マタイによる福音書 27:45~46節

『さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。』

礼拝讃美歌⇒117番（旧149番）

『カルバリの丘の辺に』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~28節

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。』

礼拝讃美歌⇒144番（旧59番曲）

『憂きこと四方に』

《建徳》

聖書⇒創世記 40:1~8 節

『これらのことの後で、エジプト王の給仕役と料理役が主君であるエジプト王に過ちを犯した。ファラオは怒って、この二人の宮廷の役人、給仕役の長と料理役の長を、侍従長の家にある牢獄、つまりヨセフがつながれている監獄に引き渡した。侍従長は彼らをヨセフに預け、身辺の世話をさせた。牢獄の中で幾日かが過ぎたが、監獄につながれていたエジプト王の給仕役と料理役は、二人とも同じ夜にそれぞれ夢を見た。その夢には、それぞれ意味が隠されていた。朝になって、ヨセフが二人のところへ行ってみると、二人ともふさぎ込んでいた。ヨセフは主人の家の牢獄に自分と一緒に入れられているファラオの宮廷の役人に尋ねた。「今日は、どうしてそんなに憂うつな顔をしているのですか。」「我々は夢を見たのだが、それを解き明かしてくれる人がいない」と二人は答えた。ヨセフは、「解き明かしは神がなさることではありませんか。どうかわたしに話してみてください」と言った。』

聖書⇒ヨブ記 33:15~16 節

『人が深い眠りに包まれ、横たわって眠ると／夢の中で、夜の幻の中で神は人の耳を開き／懲らしめの言葉を封じ込められる。』

聖書⇒創世記 40:9~11 節

『給仕役の長はヨセフに自分の見た夢を話した。「わたしが夢を見てみると、一本のぶどうの木が目の前に現れたのです。そのぶどうの木には三本のつるがありました。それがみるみるうちに芽を出したかと思うと、すぐに花が咲き、ふさふさとしたぶどうが熟しました。ファラオの杯を手にしてわたしは、そのぶどうを取って、ファラオの杯に搾り、その杯をファラオにささげました。』

聖書⇒創世記 40:12~13 節

『ヨセフは言った。「その解き明かしはこうです。三本のつるは三日です。三日たてば、ファラオがあなたの頭を上げて、元の職務に復帰させていただきます。あなたは以前、給仕役であったときのように、ファラオに杯をささげる役目をするようになります。』

聖書⇒創世記 40:14~15 節

『ついては、あなたがそのように幸せになられたときには、どうかわたしのことを思い出してください。わたしのためにファラオにわたしの身の上を話し、この家から出られるように取り計らってください。わたしはヘブライ人の国から無理やり連れて来られたのです。また、ここでも、牢屋に入れられるようなことは何もしていないのです。』

聖書⇒創世記 40:16~20 節

『料理役の名は、ヨセフが巧みに解き明かすのを見て言った。「わたしも夢を見ていると、編んだ籠が三個わたしの頭の上にあります。いちばん上の籠には、料理役がファラオのために調べたいろいろな料理が入っていましたが、鳥がわたしの頭の上の籠からそれを食べているのです。」ヨセフは答えた。「その解き明かしはこうです。三個の籠は三日です。三日たてば、ファラオがあなたの頭を上げて切り離し、あなたを木にかけます。そして、鳥があなたの肉をついばみます。』』

聖書⇒創世記 40:21~22 節

『ファラオは給仕役の名を給仕の職に復帰させたので、彼はファラオに杯をささげる役目をするようになったが、料理役の名は、ヨセフが解き明かしたとおりに木にかけられた。』

聖書⇒創世記 40:23 節

『ところが、給仕役の名はヨセフのことを思い出さず、忘れてしまった。』

聖書⇒創世記 41:1 節

『二年の後、ファラオは夢を見た。ナイル川のほとりに立っていると、』

聖書⇒創世記 41:9 節

『そのとき、例の給仕役の名がファラオに申し出た。「わたしは、今日になって自分の過ちを思い出しました。…』

聖書⇒イザヤ書 49: 14~16 節

『シオンは言う。主はわたしを見捨てられた／わたしの主はわたしを忘れられた、と。女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも／わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたを／わたしの手のひらに刻みつける。あなたの城壁は常にわたしの前にある。』

聖書⇒ルカによる福音書 12: 6~7 節

『五羽の雀が二アサリオンで売られているのではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。』

礼拝讃美歌⇒20 番 (旧 138 番)

『ひとりの御子をば』

《建徳要旨》

「人は忘れても、神は忘れない」

創世記 40 章:当時、夢を解釈する専門家でしたが、ヨセフは、人ではなく、神に聞くべきだと言いました（8 節）。夢は神がメッセージを伝える大事な手段でした。ヨセフは高官が見た夢を解釈します。給仕役の長は、元の職務に復帰できると聞いて喜びます。普通は謝礼が支払われます。しかしヨセフは、それを要求しませんが、思わず本心を吐露します。「自分は無理やり連れて来られたこと、牢に入れられるような罪は何も犯していない」と訴えます。高官に頼めば、王に執り成してくれ、ここから出られると期待したのです。ここを読むと、ヨセフの必死さが伝わり、胸を突かれます。これまでずっと沈黙してきたヨセフですが、一縷の望みを地位の在るこの人に託したのです。恐らく、給仕役の長はヨセフに「分かった、お前の事を王に話し、ここから出られるように取り計らう」と約束したに違いありません。ところが、給仕役の長はヨセフのことを思い出さず、忘れてしまった（23 節）。ヨセフは期待して待ったでしょう。ところが、待てど暮らせど、何の音沙汰もない。どうしてか。悪意はなかったとしても、忘れたから。待つ 2 年間はヨセフにとっては辛い時でした。約束を忘れた人の事を悪く言ったとしても、事態が変わるわけではない。むしろすべてを益に変えてくださる神に委ね、前を向くこと、それがヨセフの姿勢です。イザヤ 49 章 14～16 節：シオンは「わたしの主はわたしを忘れた」「女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。…たとえ、女たちが忘れようとも、わたしがあなたを忘れることは決してない」。人は忘れても、神は忘れない、決して。主イエスは言われた、「5 羽の雀が 2 アサリオンで売られているのではないか。だが、(数にも入らない) その 1 羽さえ、神がお忘れになるようなことはない」。 (ルカ 12 章 6 節)。あなたが神を忘れようとも、神があなたを忘れることはない。